

令和5年度第3回小田原市生活交通ネットワーク協議会 議事録

日時：令和6年2月5日（木）9：30～11：45

場所：小田原市役所3階 議会全員協議会室

出席者：出席者名簿参照

○議題

・協議事項

- (1) 片浦地域のバス路線について ※非公開
- (2) 移動支援の実証事業について
- (3) 小田原市地域公共交通計画策定に係る市民意見等について
- (4) デジタル田園都市国家構想交付金を活用した公共交通情報の高度化について

・報告事項

- (1) 民間提案制度（新たな技術を活用した移動支援）について

・その他

○意見交換等

・協議事項について	
・協議事項（1）片浦地域のバス路線について ※非公開	
・協議事項（2）移動支援の実証事業について	
（事務局）	（資料 2-1、2-2 に基づき説明）
（会長）	2-2 の移動支援の実証事業の拡充について、令和6年4月からの半年間の展開についての協議である。ご意見、ご質問、お受けしたい。まず、事務局に質問であるが、実証事業を拡充し続けていきたいということであるが、どのような状況であれば続けるという評価をするのか。出口をそろそろ見通したいが事務局の考えはあるか
（事務局）	継続に関する明確な基準は検証結果を踏まえながら検討していくが、相乗りタクシーは利用率や相乗り率が客観的の数値になり協議が必要と考えている。助成券については申請率や使用状況で見極めていく必要がある。
（会長）	タクシー車両を借り上げると固定費がかかる。コストに対して利用収入が少なくなってしまう。供給側でいうと、車両を確保した方がよいのか、チケットで個別のタクシーを呼んでいただく方が合理的なのかという議論がある。相乗りタクシーや乗合タクシーを実施すると、利用一人当たりの行政コストが千何百円となるということもある。経費が高くなってしまえば、都度タクシーとして呼ぶ方が良いとか、あるいはタクシー会社としての地域で運行できるのかなど、検討すべきこと

	<p>がある。需要側では、満足度で評価するのかなど評価の方法を決めておかないといけない。実証事業で終わってしまうのか、支えきれなくなってしまうなどのケースもあるため、出口の考え方も準備しておいた方が良い。</p>
(事務局)	<p>利用実績などの数値や、また地域の声なども聞きながら、進めていきたい。</p>
(副会長)	<p>実証実験であるため検証をしないといけない。今回お示ししたのは2カ月の取組み結果の速報であり、実証終了後に改めて効果を検証する。今年度については11月から3月までの5か月間となるが、地域の声を聞いて不便であれば改善するということもある。また、検証に当たっては1年程度は実施する必要があると考えているため、期間やエリア等含む議論が必要である。</p>
(会長)	<p>季節性などもあるかと思うので、一定の期間として見てみたいということかと理解した。</p>
(会員C)	<p>行き先別にデータが取れる仕組みがあるとよい。医者へのアクセスが多いはず。地区の実情もあるため、地区特性を考えて取り組んでいただきたい。</p>
(事務局)	<p>おだチケを利用して乗った場所、降りた場所を書いていただいている。内容も検証していきたい。</p>
(会長)	<p>前橋はマイナンバーカードでやっているのだから全部データがとれる。おだチケで書いていただいているのであれば、ある程度集計できる。ちなみに、おだチケでバスを使う場合はどうしているのか。</p>
(事務局)	<p>バスも乗った場所、降りた場所を書いていただいていることになっている。</p>
(会長)	<p>出していただけると評価につながる。資料2-2通りで承認ということでしょうか。</p>
	<p>会員、承認。</p>
<p>・協議事項 (3) 小田原市地域公共交通計画策定に係る市民意見等について</p>	
(事務局)	<p>(資料3-1に基づき説明)</p>
(会長)	<p>パブリックコメントを12月15日から1月15日の間で実施し、8名から43件の意見をいただいた。それに対し、本文の修正を資料3-1として概略説明をいただいた。3ページの※印のところだけ変えたのか。</p>
(事務局)	<p>日中に路線バスの運行していない空白時間帯が生じている路線のバス停 300m以</p>

	<p>内の次の※印の「特に市民が日常生活に利用している路線であって、日中に2時間以上、運行していない路線」のところを変えている。今後、地域から不便の意見があったら、検討する必要があるため、文言の修正をしたいと考えている。</p>
(会長)	<p>説明の通り、「特に市民が日常生活に利用している路線であって、日中に2時間以上、運行していない路線」の文言を加えるとのことであった。</p> <p>10ページの石名坂線の扱いであるが、わざわざ書くのは理由があるのか。</p>
(市)	<p>国のフィーダー系統に位置付けていくことを予定しているが、路線は真鶴町にまたがっている一方、真鶴町は計画を策定する予定はない。転回するスペース確保のため真鶴町に一部跨るが、そういった中で真鶴町の計画の位置付けがなくても、国のフィーダー系統補助を獲得していくためのことを見据えた記載としている。</p>
(会長)	<p>このような書きぶりで問題ないか。</p>
(会員D)	<p>確認させていただきたい。</p>
(副会長)	<p>3ページの文言の変更について、分かりづらいため、後日、資料差し替えたものを郵送するとよい。</p>
(事務局)	<p>3ページと6ページのところについて、市の考え方が入っていないところもあるので、2カ所の説明について改めてお送りする。</p>
(会員B)	<p>9ページの体系図は、新たに作ったのか。</p>
(事務局)	<p>まちづくりと連動してつくっていくということで話をしている中で、交通計画とのリンクの説明が補足としてあった方が良いと考え掲載している。</p>
(会長)	<p>立派な記載となっているが、都市マスタープラン等々と整合を図られているのか。目指すべき都市構造と齟齬が無いのか。</p>
(事務局)	<p>まちづくりの方向性は、長期のスパンで目指していくものとなる。一方、交通計画の中では10年間の取組となる。地域公共交通計画の中で、まずは地域内のネットワークを維持していくが、その先には関連計画のまちづくりの計画と連動させた長期のスパンの方向性を示している。</p>

(会長)	資料 3-1 の 13 ページについて、ここに入れる必要があるのか。
(事務局)	今時点の動きとして整理する意味で示している。
(会長)	105 ページの左の内容については、やろうと思えば今までも出来た。事業者協力型の有償運送、車両の整備点検と配車事業をダブルでないと対応できなかったのが、今回は緩和されたのが一歩進んだが、神奈川県版のライドシェアは具体化となるのか。
(会員代理A)	まだ、案であり実証実験の段階である。
(会長)	本計画が 10 年の計画の中で、今後も流動的なライドシェアについて現時点のものを書く必要があるのかと疑問に思った。国や県でも検討している中で、見極めながら検討していくということを書くのは良いが、本内容は少々賞味期限が短い資料だと思う。
(事務局)	101 ページの移動支援策のメニューの概要をまとめているところにおいて、国や県やライドシェアの動向を、と一文は入れている。このため、105 ページ、106 ページは削除するという事で考えたい。
(会長)	101 ページに書いてあるため 105、106 ページは削除とのことであった。石名坂線の件は運輸支局に確認いただくとし、口頭での修正箇所について、改めてお送りいただくということである。その他異論はないようですので、進めていただければと思う。
・協議事項 (4) デジタル田園都市国家構想交付金を活用した公共交通情報の高度化について	
(デジタルイノベーション課)	(資料 4 に基づき説明)
(会長)	今後申請する内容について説明を頂いたが、協議会では何を協議すればよいか。
(デジタルイノベーション課)	この度、申請するということについて説明をさせていただいたため、そのことについてお願いしたい。

(会長)	<p>気になる事項として、提案のデータ連携基盤に GTFS データを流し込むということになるが、交通事業者の各社にてオープンデータに対応し更新できる体制となっていれば良いが、そのような環境でない場合は取組みにおいて躓きがでてしまう。</p>
(デジタルイノベーション課)	<p>そのことについては調整できればと考えている。</p>
(会長)	<p>そのことの確認が無い状態で申請ということだと困る状況と考える。</p>
(会員B)	<p>いきなり採択されたから協力して欲しいという流れとなれば、各社対応できるか否か分からない。そのような状況で、国の補助申請できるのか、疑問に思うところである。</p>
(デジタルイノベーション課)	<p>理想は全ての情報をまとめられるとよいが、ミニマムで二つ以上統合できればと考えている。最大で皆さんがご参加いただけることが理想形である。</p>
(会員B)	<p>事業者が協力できないということであるとどうなるのか。</p>
(事務局)	<p>可能であれば再検討していく、難しければ断念となっていくということかと思う。</p>
(会長)	<p>この状況では、あとは交通事業者さんと進めてくださいというわけにはいかないと考えている。</p>
(デジタルイノベーション課)	<p>なぜ最低 2 社なのか、データを統合するため少なくとも 2 社の統合が必要と考えている。4 社の情報が一つのプラットフォームで確認できれば利便性が向上する。</p>
(会長)	<p>静的な情報を出すなら、グーグルマップを開けば出てくる、ナビタイムでも出てくる。そこでどういった付加価値があるのか。小田原市の場合であれば、事業者ごとにエリアは何となく分かれている。2 社ということであれば、ある特定のエリアでは使えるが、あるエリアは使えないということになる。動的データについては各会社で状況が違っている。別の事例でも出来るだろうと思って着手したら課題があり</p>

	<p>進まなかったというケースもある。各社さんがこういった形で情報をお持ちで、オープン化されていて、いくつかの予見、整理した上で、協力体制が組めるかという話である。</p>
(会員D)	<p>市内に限っては、大幅にダイヤ遅れが発生するのはほぼ箱根エリアである。小田原市内はそもそも本数、1時間あたり4本、5本という中で、お住まいの皆さんはどこが渋滞や遅延するのか熟知している。このため、この取組により各バス会社の負担や、お客様への情報が飛躍的に向上するかどうかは見えない。</p>
(会長)	<p>箱根エリアと考えると、小田原市単独でやるのか、他市町と連携するのかといった課題もある。また、今回の取組によって問い合わせが減少したかなどの効果があればよいが。</p>
(随員A)	<p>このシステムを入れて、どのような利用場面があるのか読めない。資料には、観光交流センターの利用場面しかないのでは何とも言えないが、幸町のバス停から箱根方面のバス停しか使えないかなと思う。目的が補助金獲得のように見えてしまう。</p>
(デジタルイノベーション課)	<p>オープンデータ、ウェブサービス化するので、様々な媒体を介して市民に提供していける。使用方法は資料に記載の通りで、他の地域で使うことも想定している。</p>
(会員E)	<p>データ統合など、こういった流れで進めていくのか示していただきたい。</p>
(デジタルイノベーション課)	<p>まずは現状の把握から。GTFSを用いて、統合して、ポイントアプリ、スマホサービスに展開していく。</p>
(会員C)	<p>新しいシステムというのは利用者をどうやって増やすのか。利用者のITリテラシー、高齢者のスマホ利用などの普及。システムの設計、標準化が進まないところである。一貫した流れ、目指す取組の枠組み(フレームワーク)を示していただいて、どういうゴールを目指すかを検討いただきたい。</p>
(デジタルイノベーション課)	<p>そのように検討していきたい。</p>

課)	
(会長)	誰に使ってもらいたいのか、どういうゴール、そのためになぜ IT やシステム、データ化が必要なのか、が読み取れない。教科書的にはそうだが、世の中の解決になるか見えづらいというのが多くの地域で起こっている。お客さんを増やす労務管理改善ならウエルカムであるが、一旦は、何を指すか整理して、個別に聞き取りいただいて、ご検討いただいた方がよろしいのかなと思う。この段階では、そのような整理をさせて頂きたいと思う。ちなみに、本件はタイプ 2-3 か。
(デジタルイノベーション課)	その通りである。
(会長)	そうであれば、この点、明確にしていきたい。
・ 報告事項について	
・ 報告事項 (1) 民間提案制度 (新たな技術を活用した移動支援) について	
(事務局)	(資料 5 に基づき説明) (質疑無し)
・ その他	
(会長)	今後の予定であるが、3 月に協議会を開き、小田原市地域公共交通計画を策定する。
(事務局)	次回第 4 回協議会は令和 6 年 3 月 28 日 (木) 9 : 30 ~ を予定している。